



麻布地区旧町名由来板

あざぶこうがいちょう 麻布筈町

明治2年(1869)、渋谷長谷寺門前、渋谷掃除町、麻布裏三軒家町、麻布桜田町飛地を併せて麻布筈町というようになり、明治5年(1872)、近隣の武家地を合併しました。町名は町の近くにあった筈橋に由来します。筈橋の由来は、「江戸砂子」の伝るところでは、大慶の乱(939)のとき、竜川にさしかかった源経基を、前司広雄というものが関所を設け阻んでいました。経基は、この時帯びていた刀の筈を証拠に与えて通過しました。後に、この橋を筈橋と呼ぶようになりました。しかし、今はその川も橋も既にありません。

こうがいの語源については、国府方(村名、「南向茶話」)、小員(郷名)又は後悔(以上「紫の一本」)、香貝(村名)鶴居(以上「江戸鹿子」)、甲賀伊賀(組屋敷名・「再版江戸砂子」)等の諸説があります。

あざぶさんげんやちょう 麻布三軒家町

むかし、麻布村のうちで、村方の頃は家数が三軒だけでした。しだいに家数は増えましたが、三軒家町というようになったと伝えられています。何軒家という地名は、とくに関東に多くあります。

あざぶさくらだちょう 麻布桜田町

治承年間(1177~1181)、源頼朝が奥州征伐の際、鎮守の霞山稲荷に神領を寄進し、神領の印に田の畝(作物を作るために、長く土を盛り上げた所)に桜を植えました。その桜がおいおい繁って自然に桜田と呼ばれるようになりました。桜田町はもともと霞ヶ関(現在の千代田区)にありましたが、寛永元年(1624)、江戸城御用地になるのに伴い代地を受け移ってきました。

あざぶかすみちょう 麻布霞町

江戸時代には武家地で、町屋はありませんでした。明治5年(1872)、武家地を併せて麻布霞町としました。町名は隣町にある霞山稲荷(現在の桜田神社)に由来します。霞山稲荷は桜田町といっしょに霞ヶ関(現在の千代田区)から移ってきました。

Azabu'kōgai-chō

The town's name derives from the *Kōgai-bashi* bridge existed near the town in the past. The river and the bridge have already disappeared.

Azabu'sangenyā-chō

This place was a part of *Azabu-mura* village governed by a chief magistrate and there were three houses only at that time. Thereafter the number of houses gradually increased but the town is said to have been named *Sangenyā-chō* ("a town consisting of three houses") after its origin.

Azabu'sakurada-chō

During the Jishō era (1177-1180) *Minamoto no Yoritomo* donated an estate to *Kasumiyama'inari-jinja* shrine, the village shrine, and planted cherry blossom trees on ridges in a field as a token of the shrine's estate when he went on an expedition to conquer the *Fujiwara* family which governed the *Ōshū* (the present *Tohoku* district). The trees gradually flourished and the place began to be called *Sakurada* (literally "a field of cherry blossom trees").

Azabu'kasumi-chō

The town's name came from *Kasumiyama'inari-jinja* shrine (the present *Sakurada-jinja shrine*) which was located in the neighboring town.

昭和20年代の港区地図



現代(平成18年)の港区地図

